

第50回研究会

「経営デザインシート活用事例発表研究会」

2026/6/18 19:00～21:00

経営デザイン分科会

<zoom設定のお願い>

氏名を漢字フルネームでお願いします（ふりがな歓迎）

カメラON・マイクミュートでお願いします

<質問について>

ご質問はチャットをお願いします。

すべての質問にお答えできないことをご了承ください。

1. 開会
2. 事例発表

特許庁I-OpenプロジェクトでのKDS活用事例

「I-OPENプロジェクトチームの活動について」

佐藤 美優歌 氏（特許庁デザイン経営プロジェクトチーム I - O P E Nチーム）

「Art Aid for All — アート思考でひらく共創社会のデザイン」

— 人と組織の関係性を、美しい雑木林・森のように育てる —

長谷川 忠広 氏（対話型ワークショップデザイナー／人間関係開発ファシリテーター／藝術家）

「ビジネスパーソンの感性とメタ認知向上写真心理学を使ったプログラム（仮）」

檜 侑子 氏（株式会社ナムフォト代表取締役）

<https://numphoto.com/>

3. 次回のご案内

I-OPENプロジェクトチームの活動について

2026年6月18日

特許庁デザイン経営プロジェクトチーム I-OPENチーム



『I-OPENプロジェクト』の成り立ち

I-OPEN



特許庁ミッションを
具体化

<I-OPENの3つのミッション>



想いを知的財産のエンジンに

Passion Driven

小さくともありたい姿を想像し、それを具現化するために、知的財産は強い武器となる。



知は一人ひとりの創造力のために

Democratization of IP

個人や小規模チームといった新たなイノベーションの担い手が知的財産を活用し、自らの創造性を最大化できる仕組みを構築する。



社会変革のための知的財産

IP for Social Impact

知的財産を企業や経済の成長のみならず、持続的な社会づくりへと活かすための仕組みを構築する。

“I-OPEN”とは

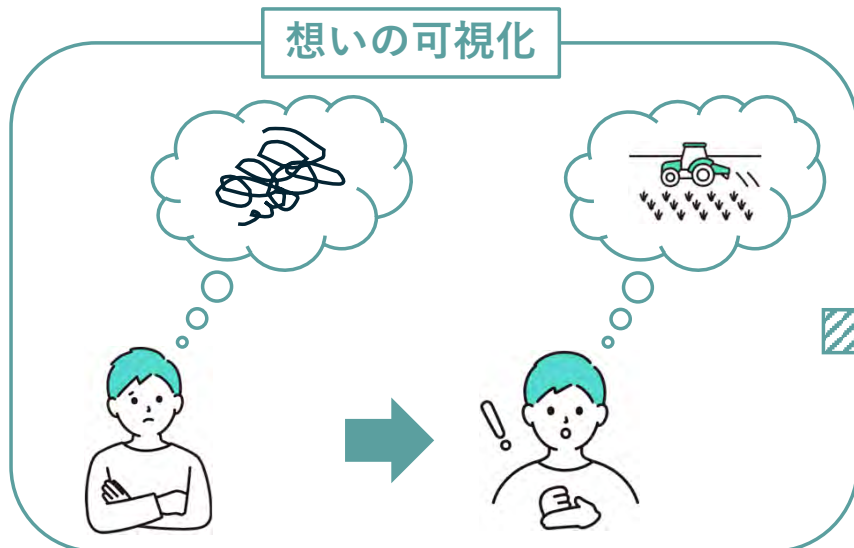
I-OPEN

I-OPEN

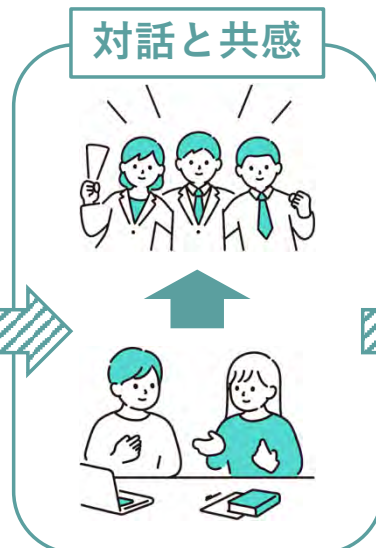
社会課題 × 知的財産

誰かの助けになりたい、社会をより良くしたい
そんな想いと創造力から生まれる知的財産をいかして
未来を切りひらく人々を支援するプロジェクト

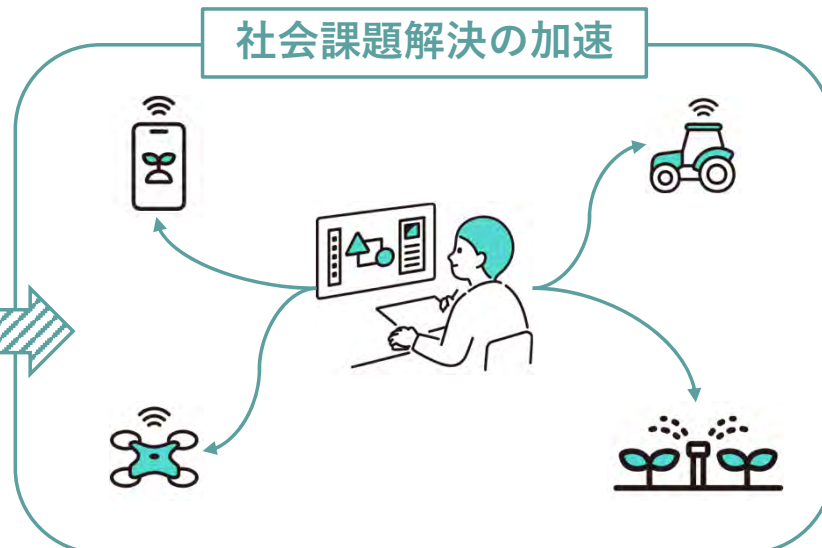
想いの可視化



対話と共感



社会課題解決の加速



“I-OPENER”とは

I-OPEN

サービスの価値を知財が見える化した

知財はアイデアを
正しく広めるため
の装置



知財は想いに共感する
仲間を集める

I-OPENERにとっての知財は 「独占 < 共創」

“SUPPORTER”とは

I-OPENERが抱える課題

特許や商標登録は、私の場合どんなメリットがあるのだろうか…

.....

.....

どうしたらアイデアをもっと社会に広げていけるだろうか…



伴走支援チーム (SUPPORTER)



知的財産の専門家

- ・ 想いを起点とした知財活用を検討
- ・ 出願等における支援等の知財支援全般
(出願戦略、オープン・クローズド戦略、知財の確認、権利・技術面からのコアコンピタンス整理等)



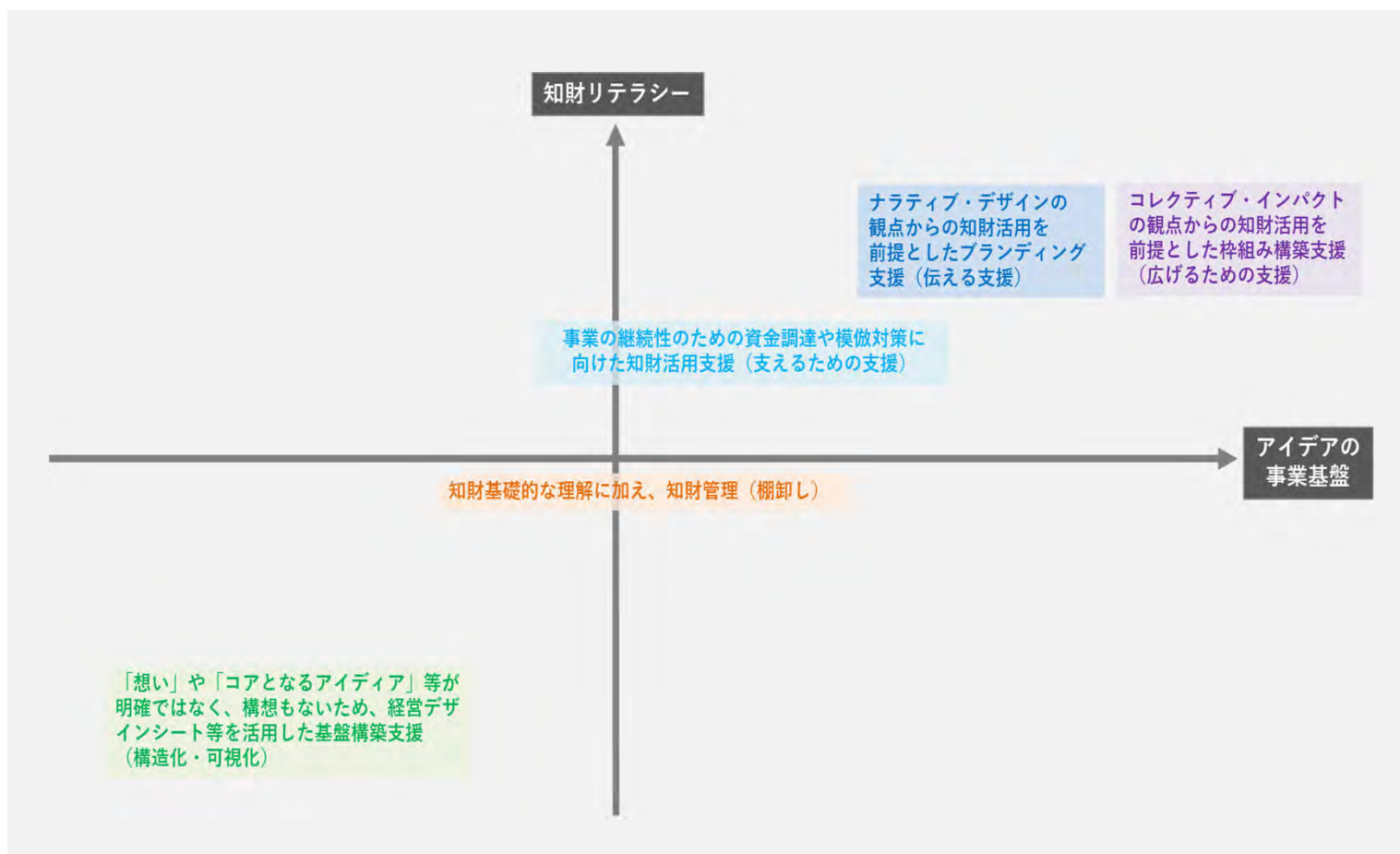
社会課題解決・事業戦略・ブランド等の専門家

- ・ ありたい姿を描き出すための支援
- ・ ビジネスプラン／ビジネスモデルの検討
- ・ 社会課題解決のための事業内容への助言
- ・ 事業戦略・ブランド戦略等の構築支援

メンタリング手法分析（事例紹介）

I-OPENERのマッピングと支援方法の仮説

I-OPENERへの支援に関するマッピングと知財支援形態の関係（仮説）について、知財リテラシーとアイデア事業基盤を軸にし、ポジショニングによって求められる支援内容の仮説をプロットした。



「想い」や「コアとなるアイデア」等が明確ではなく、構想もないため、経営デザインシートを活用した基盤構築支援（構造化・可視化）

例）個人事業主、学生等

知財基礎的な理解に加え、知財管理（棚卸し）

例）リグノエッセンス（旧konohana）

事業の継続性のための資金調達や模倣対策に向けた知財活用支援（支えるための支援）

例）個人事業主、学生等

ナラティブ・デザインの観点からの知財活用を前提としたブランディング支援（伝える支援）

例）RingsCare、ORANGE Kitchen

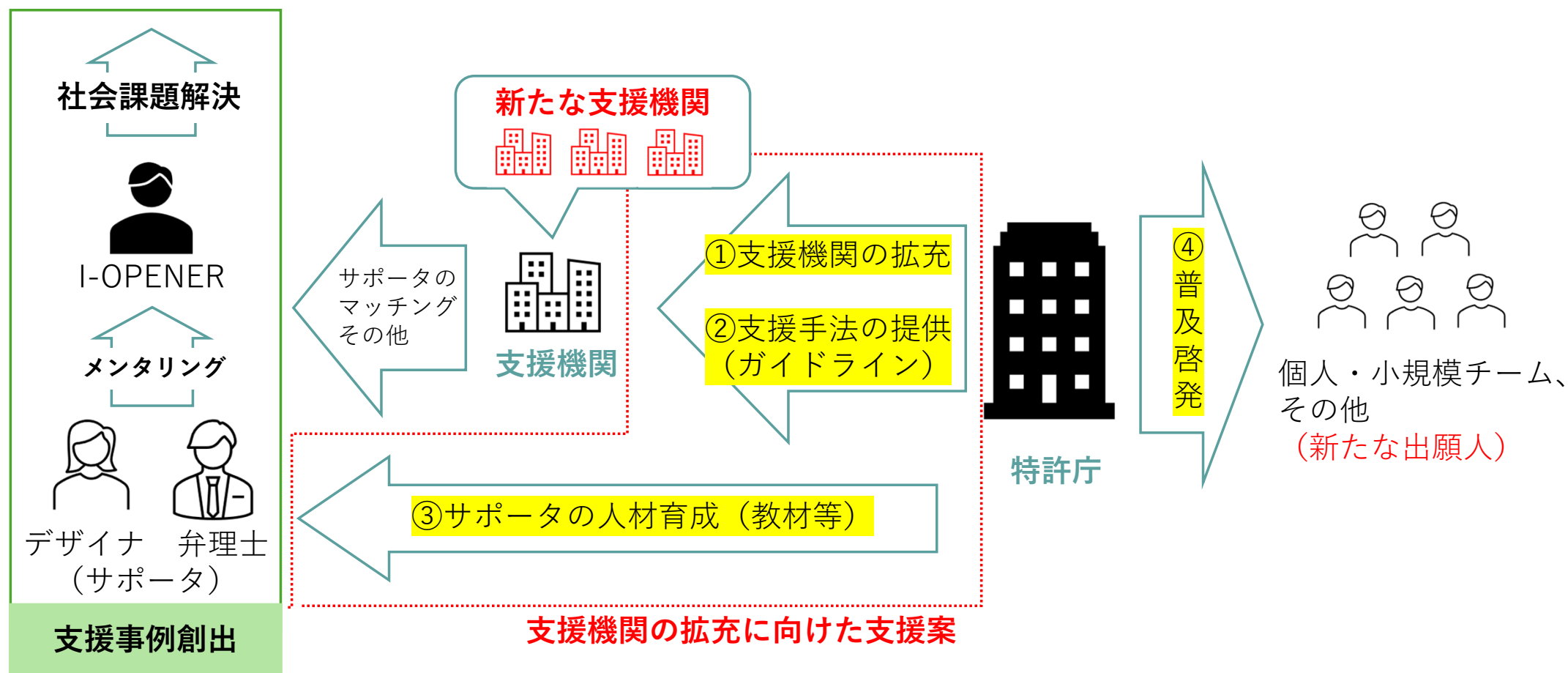
コレクティブ・インパクトの観点からの知財活用を前提とした枠組み構築支援（広げるための支援）

例）チロル堂、Synflux

今後目指すスキーム案

I-OPEN

- I-OPENプロジェクトの一層の社会実装を目指し、将来的に特許庁以外の新たな支援機関による支援が実現する可能性と、その実現に向けて必要な対応について検討する。



ご参加の方々へのご質問

I-OPEN



I-OPENプロジェクトで一番魅力的と感じたところは？

未来のSUPPORTER育成の効果的な方法は？
(受ける側の目線で)

I-OPENプロジェクトに期待することは？



ご静聴ありがとうございました！



<I-OPENプロジェクト>

特設サイト：<https://www.i-open.go.jp/>

問合せ先：特許庁デザイン経営プロジェクトチーム
PAdesign.project@jpo.go.jp



人と組織の関係性を、
美しい雑木林・森のように育てる

アート思考でひらく共創社会のデザイン

人間関係開発ファシリテーター／藝術家
長谷川忠広



人間関係開発ファシリテーター／藝術家

長谷川 忠広

Tadahiro Hasegawa

1980年6月14日生まれ 双子座A型 📍 大阪府池田市出身

／「はせ」と呼んでください／

同志社大学心理学科卒業。京都藝術大学在学中。
教育・ビジネス・地域を横断し、アートが持つ「問いを立てる力」を手がかりに、人と組織の創造性を再構築する活動を展開している。

アートの本質的なあり方が、私たちの未来をよりよくすると信じ、2022年からオリジナルの木製アートブロックを用いたワークショップを毎月開催。これまでに延べ約1,000名が参加。
2025年度広島県主催ビジネス創出プログラム「PANORAMA」に採択。

また藝術家として、広島県産材や被爆樹木を用いたアートブロックによる《RE:ARCH》プロジェクトを展開し、2026年2月には広島平和記念公園内で実施。
問いを立てる「アート思考」と、課題を解決する「デザイン思考」を往復しながら、相互尊重・自律分散・動的均衡を土台とした共創の場をデザインしている。

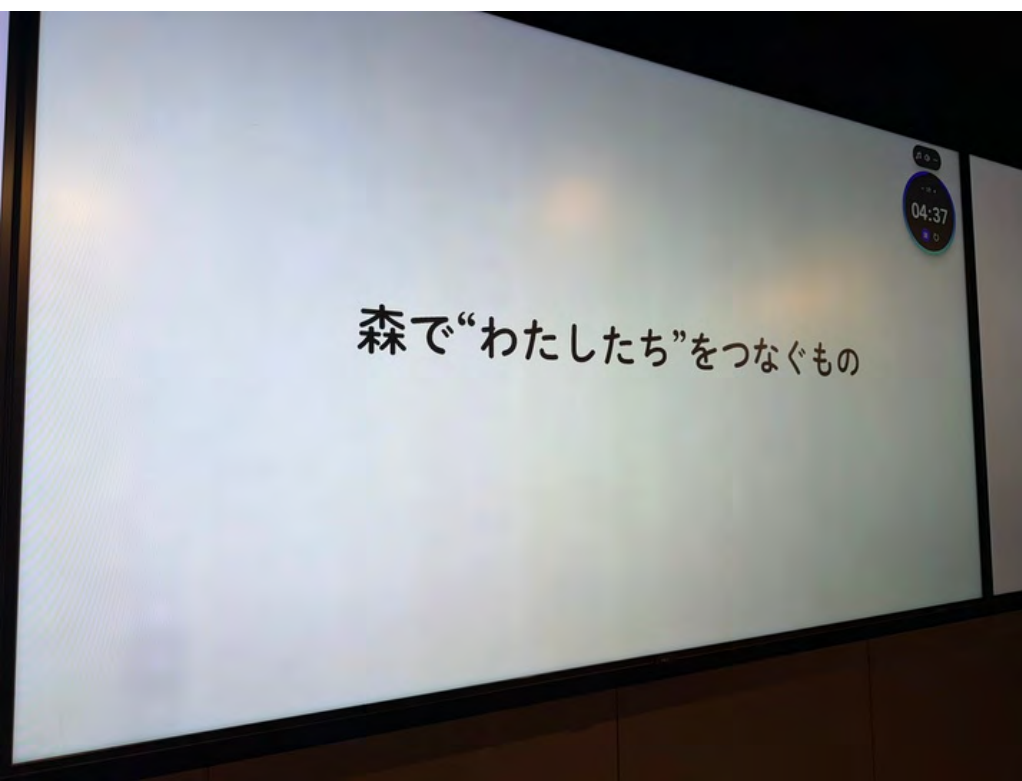
活動 風景



Art Aid for All



活動風景



Art Aid for All

活動風景



Art Aid for All

まず、 アート思考って、何？

アートは本当に「私」に関係ないもの？

アートとは、選ばれし者だけのものか？

それって
「うちの部署だけ」みたいに
境界を作っちゃうのと同じかもよ。



言葉の意味から 深掘りしてみる

ART=アート

アートは日本語で
「芸術」だよね…

じゃあ、

藝(芸)術の

「藝」

ってどういう意味？

Q.1 「藝」？

→種を植え

作物を生まれさせる

Q.2 藝術の英訳？





Q.1 「藝」？

→種を植え

作物を生まれさせる

Q.2 藝術の英訳？

→Art

→2種類

Liberal Arts

リベラルアーツ（Liberal Arts）とは、言語系3学（文法・論理・修辞）と数学系4学（算術・幾何・天文・音楽）で構成される自由7科（セブンリベラルアーツ）のことを指す。

Technical Arts

もっぱら手や体に関わるもので、例えば服や日用品、延いては作品をつくる技術のこと。



Art thinking

アート思考とは



表現の花

3

あなたが見つけ出す
あなただけの正解

興味・関心の種

1

目の前にあるものへの
「本当にそうか？」

探究の根

2

物事の本質を
問い続けまくる

ここで、

経営デザインシートと

近藤さんに、 出会う

存在意義（パーパス）・動機

一人ひとりが自らのリズムで生き、互いを大切にしながら循環する「森」のような社会をつくる。Art Aid for All は、アートと対話を通して、人と組織がそれぞれの意思で動きながらつながり、変化の中でバランスを取り合い、共に新しいものを生み出していく関係をデザインする。

① 自らをドライブする動機（内的動機）

それらが、自らのように生き、育っていきなかに気づき、また、他者のそれを相互に尊重できる社会をつくりたい。

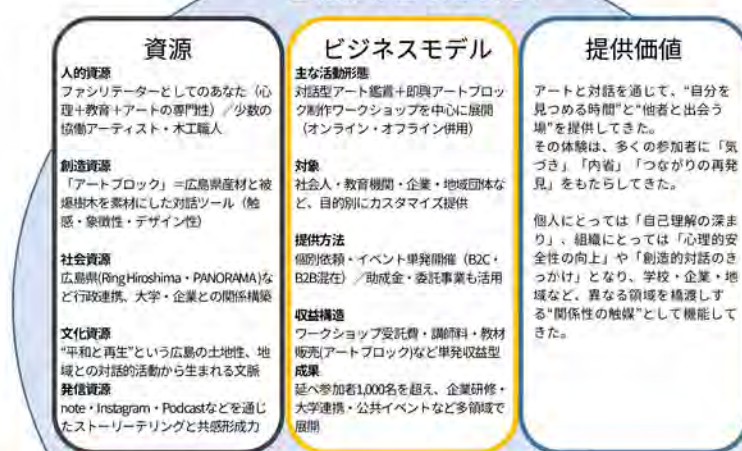
人はお互いの「聞わりしろ」を意識できたとき、それぞれの主体性を自然に尊重し合えるはず。人は他者を見て多様性を追い求める社会ではなく、自分を覗き込み、他者を大切にしたいくなるような場をつくってほしい。

その循環の中に在りながら、個を芽吹かせ、森として自立分散的に呼吸する社会の「動的均衡」を司る媒介者でありたい。

② 社会の共感を得るパーパス（外的共鳴）

アートと対話を通じて、関係性の再構築と新たな創造を行う。
現代社会は「効率」と「多様性」の両者の間に「価値」の進化を促し、その結果として多くの人が奮闘している。今こそ、「関係性」の進化を迎えるときではないか。
Art Aid For Allは、アートの力で自分が自分の内側を覗き込み、それを他者と共有し、共鳴し合い、共に生きるための場所を探していく。
個人と個、組織と社会のあいだに新しい循環を生み出す媒介として、人と社会の「美しい関係性」を再びデザインしていく。

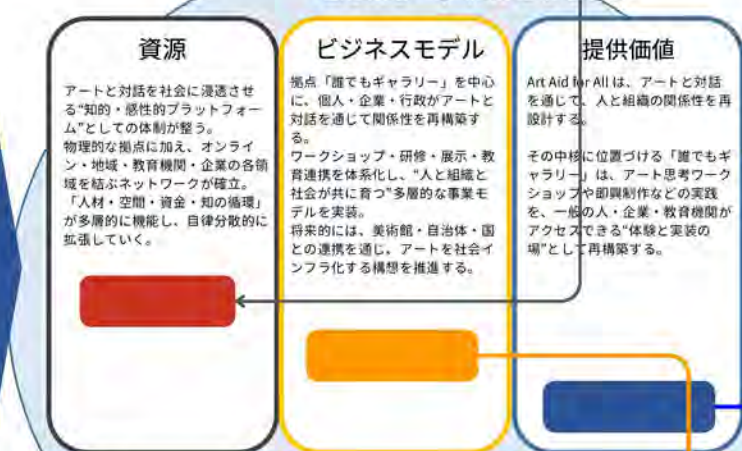
これまでどうだった？



課題（困りごとではなく、その解決のために取り組むこと）

ワークショップという「点」での体験提供は実現できたが、それを「線」や「面」に広げるための仕組みがまだ確立されていない。単発開催では、気づきが一過性に終わることが多く、持続的に「変化を育てる場」にするための拠点・人材・収益モデルの整備が必要。また、あな自身が媒介者として多領域をつないできた結果、活動が拡散しやすい、「再現可能な仕組み」としての体系化が求められている。

2030 年にはこうしたい



【資源】

心・教育・アートを核とする専門人材と、地域・大学・企業を結ぶ共創ネットワーク。AIやブロックを核とした創造資源と、常設施設「誰でもギャラリー」そして学びと対話の知的アーカイブを基盤とし、持続的に価値を生み出す。
【外部環境】
 不確実性と多様性が共存する社会において、人間らしい創造と共感の再生が求められる。AIや自動化が進む中、個人・組織・社会が「関係性の進化」を遂げる時代に、「誰でもギャラリー」は、アートと対話を通じて共に生きる力を再構築する場となる。

2030年に向けていまからどうするか (将来必要となる資源をどう手に入れるか・誰とどうつながるかなど)

既存のネットワーク（広島県・大学・企業）と連携し、常設拠点「誰でもギャラリー」の開設と運営体制を確立する。ファシリテーターや研究者などの共創人材を育成し、アート思考・対話・木工・教育を統合した実践モデルを構築する。

更に……
 中期的には企業研修・教育連携・展示を通じて社会実装を進め、
 長期的には美術館・自治体・国際機関と協働し、
 「アートで人と社会が共に育つ仕組み」を世界に発信する。

領域	変化の方向性	それに対して「誰でもギャラリー」が果たす役割
社会・文化	多様性が形骸化し、「他者理解」より「自己理解」の欠如が深刻化。孤立と分断を超えて「共に在る」力の再構築が課題に。	アートと対話を通して、他者と共に自分を見つめ直す「関係性の再生装置」として機能。
経済・組織	AI・自動化により「非効率な人間らしさ」の価値が貶置される。心理的安全性・創造性が企業の競争力の中核に。 大企業の組織を形作るシステムが崩れ始める	組織にアートの思考を導入し、感性と創造の場を内製化する仕組みを提供。
教育・人材育成	終身教育から「生涯探究」へ。知識よりも、問いを立て、共に学び続ける能力が重視される。	学び直し・共学の空間として、社会人・学生・市民が横断的に交流する「学びの場」として展開。
テクノロジー	デジタルツールの普及で「体験の希薄化」が進む一方、リアルな感覚・身体性への回帰が進む。	五感・身体・素材を通じたアート体験の価値が再認識される拠点。
環境・地域	ローカル資源（木材・文化・記憶）の再評価と脱炭素志向が進む。	広島県産材など地域資源を活かした「ローカルから世界へ」発信するモデルへ。

人的資源
ファシリテーター・アーティスト・研究者・企業人材など、分野横断型の共創チームが常設的に稼働している。専門性よりも「対話する姿勢」で結ばれたネットワークが存在。

知的資源
アート思考・対話・教育デザインに関するナレッジベースを構築。大学・研究機関・企業研修部門との共同研究を通じ、実践知を社会共有化。

物理的資源
常設拠点「誰でもギャラリー」を中心に、サテライト拠点（東京・広島・京都など）を展開。訪問・滞在・制作・展示が一体化した複合的空間へ発展。

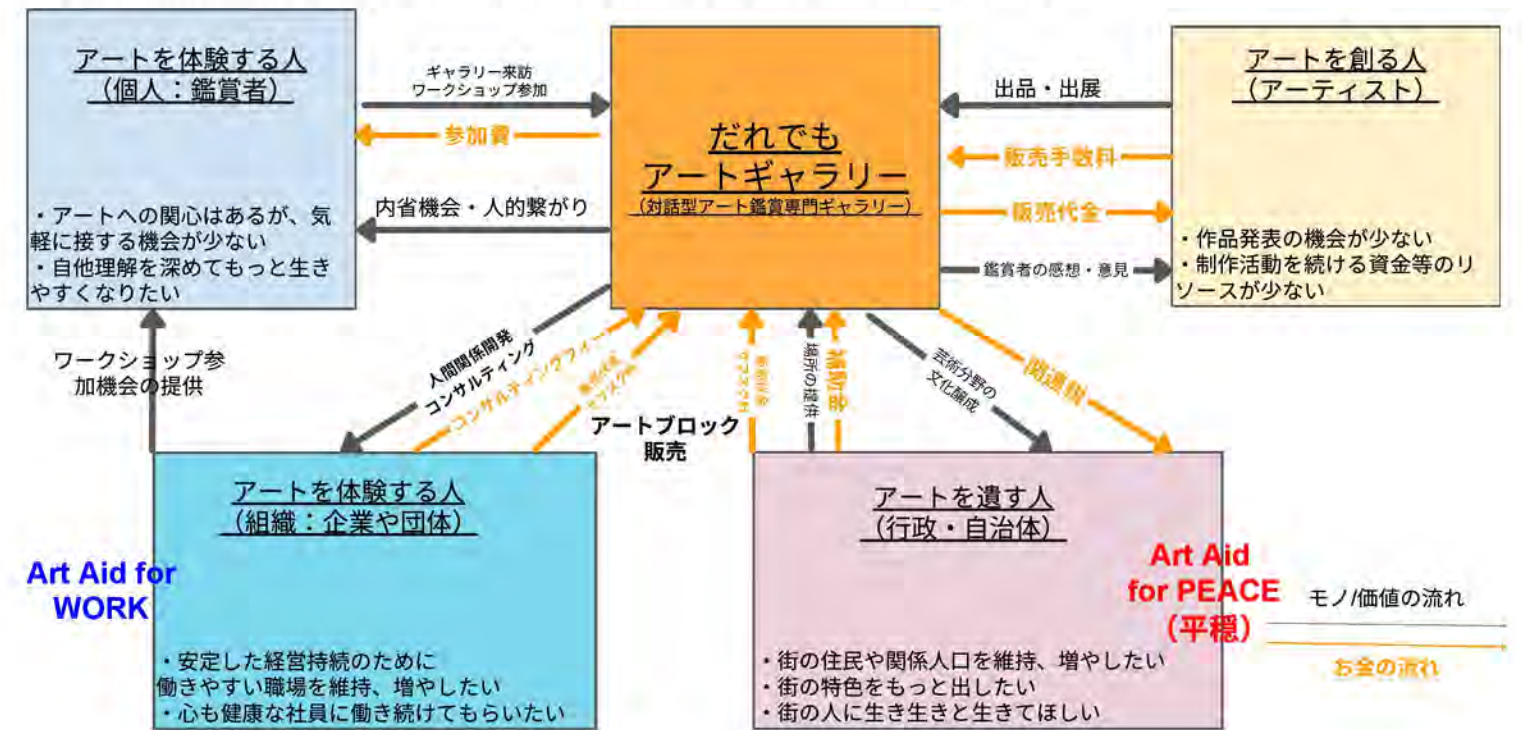
社会的資源
行政・教育・企業・NPOなどが緩やかに連携する「文化・学び・ケアのネットワーク」形成。国内外からの参加・視察・提携が生まれる。

サブスクリプション／助成・協賛／委託／販売など、複数の収益経路を持つ持続的モデルを確立。

- ・ 社会的価値（ソーシャルインパクト） → 感性・対話・創造を通じた人間関係の再構築
- ・ 文化的価値（カルチュラルキャピタル） → 地域と人をつなぐ文化のインフラとしての拠点化
- ・ 経済的価値（サステナブルモデル） → アート思考研修・ワークショップを行うことでイノベーションを起こし社会的な豊かさを与える。

ビジネスモデル：Art Aid for All

だれでもアートギャラリー（対話型アート鑑賞“専門”ギャラリー）





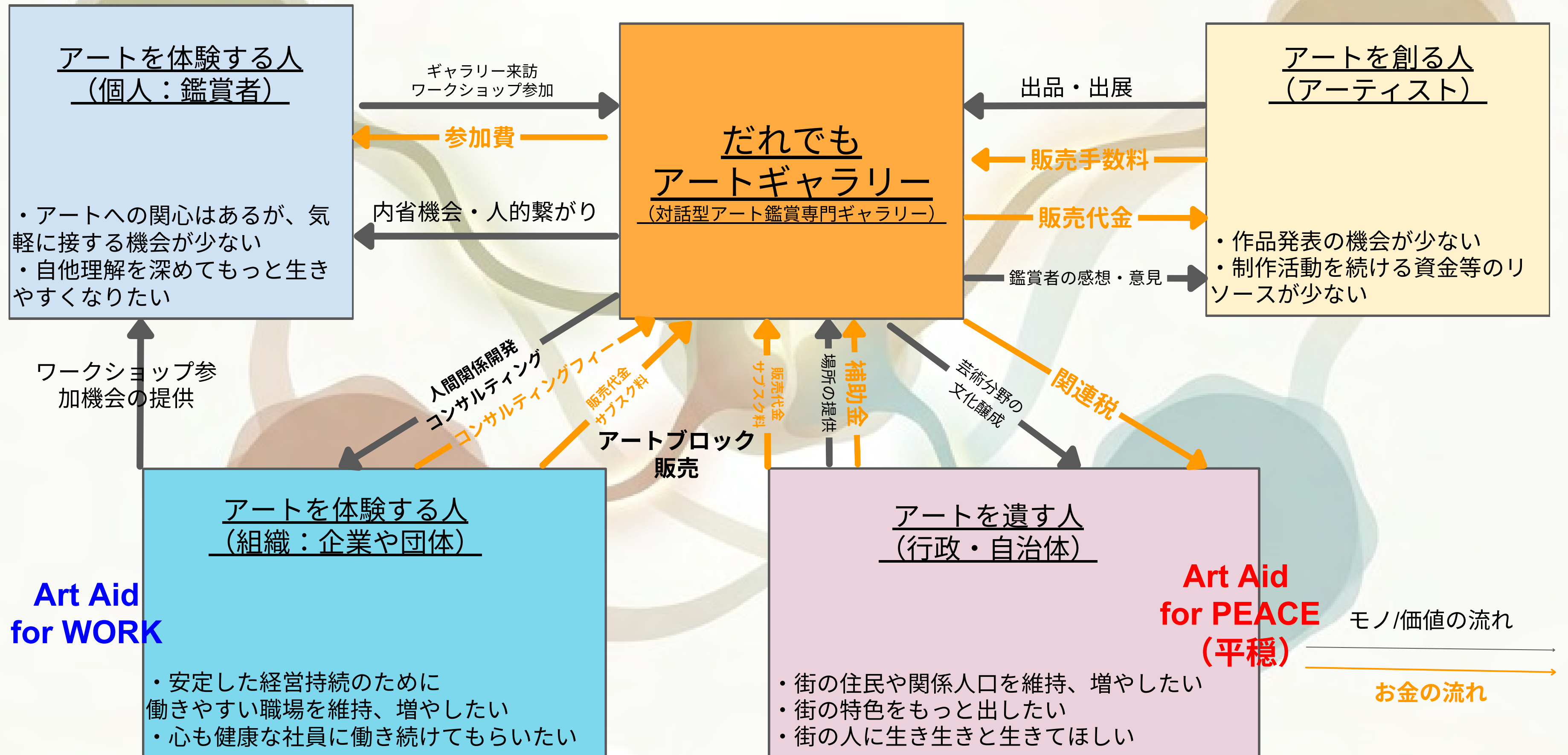
「藝」 ÷ 作物を植え、育てる

存在意義（パーパス）・動機

- 一人ひとりが自らのリズムで生き、互いを大切にしながら循環する
「美しい森・雑木林」のような社会をつくる。
- Art Aid for All は、アートと対話を通して、人と組織がそれぞれの
意思で動きながらつながり、変化の中でバランスを取り合い、共に
新しいものを生み出していく関係をデザインする。

ビジネスモデル：Art Aid for All

だれでもアートギャラリー（対話型アート鑑賞“専門”ギャラリー）



VUCA時代における 今後5年の想定価値変容

テクノロジーと 私たち

- デジタル体験価値に辟易
- 身体×素材
- 手がつくる

私たちの 暮らし

- 共に在る力
- アート×対話
- 私を更新する
- 他社理解と自己理解

会社・仕事の あり方

- 非効率な人間らしさが宝
- 安心→創造場
- 会社で試作する

サステナビリティ ESG

- 木・文化・記憶
- 脱炭素で循環
- 広島木で世界へ

人の育て方

- 知識より問い
- 共学の広場
- 社会人×学生×市民が
交わって探究

ここまでは、
2026年3月までのアイデア

ポッドキャスト

存在意義（パーパス）・動機

一人ひとりが自らのリズムで生き、互いを大切にしながら循環する「森」のような社会をつくる。
Art Aid for All は、アートと対話を通して、人と組織がそれぞれの意思で動きながらつながり、
変化の中でバランスを取り合い、共に新しいものを生み出していく関係をデザインする。

① 自らをドライブする動機（内的動機）

それぞれが、自らどのように生き、育っていきたくに気づき、また、他者のそれを相互に尊重できる社会をつくりたい。
人はお互いの「関わりしろ」を意識できたとき、それぞれの主体性を自然に尊重し合えるはず。
私は、他者を見て多様性を追い求める社会ではなく、自分を覗き込み、他者を大切にしたいくなるような場をつくっていききたい。
その循環の中に在りながら、個を芽吹かせ、森として自立分散的に呼吸する社会の“動的均衡”を司る媒介者でありたい。

② 社会の共感を得るパーパス（外的共鳴）

アートと対話を通じて、関係性の再構築と新たな創造を行う。
現代社会は「効率」と「多様性」の名のもとに「個」の進化を促し、その結果として多くの人が疲弊している。今こそ、「関係性」の進化を迎えるときではないか。
Art Aid for All は、アートの力で人が自分の内側を覗き込み、それを他者と共有し、共鳴し合い、共に生きるための場所を探していく。
個と個、組織と社会のあいだに新しい循環を生み出す媒介者として、人と社会の“美しい関係性”を再びデザインしていく。

これまでどうだった？

資源

人的資源
ファシリテーターとしてのあなた（心理＋教育＋アートの専門性）／少数の協働アーティスト・木工職人

創造資源
「アートブロック」＝広島県産材と被爆樹木を素材にした対話ツール（触感・象徴性・デザイン性）

社会資源
広島県(Ring Hiroshima・PANORAMA)など行政連携、大学・企業との関係構築

文化資源
“平和と再生”という広島の土地性、地域との対話的活動から生まれる文脈
発信資源
note・Instagram・Podcastなどを通じてストーリーテリングと共感形成力

ビジネスモデル

主な活動形態
対話型アート鑑賞＋即興アートブロック制作ワークショップを中心に展開（オンライン・オフライン併用）

対象
社会人・教育機関・企業・地域団体など、目的別にカスタマイズ提供

提供方法
個別依頼・イベント単発開催（B2C・B2B混在）／助成金・委託事業も活用

収益構造
ワークショップ受託費・講師料・教材販売(アートブロック)など単発収益型
成果
延べ参加者1,000名を超え、企業研修・大学連携・公共イベントなど多領域で展開

提供価値

アートと対話を通じて、“自分を見つめる時間”と“他者と出会う場”を提供してきた。
その体験は、多くの参加者に「気づき」「内省」「つながりの再発見」をもたらしてきた。

個人にとっては「自己理解の深まり」、組織にとっては「心理的安全性の向上」や「創造的対話のきっかけ」となり、学校・企業・地域など、異なる領域を橋渡しする“関係性の触媒”として機能してきた。

2030 年にはこうしたい

資源

人的 CLS（広島の上級プランナー）・近藤（事業メンター）・一場木工所・三澤（AIR/不動産）／核はボーディングコアメンバー
創造 アートブロック（県産材）・ReArch体験 ※被爆樹木は平和専用で分離
社会 平和記念公園の実績・PANORAMA/Ring採択・平和推進課との関係
文化 「平ぎ、和む」／森・雑木林の関係
関係観／広島県の記憶
発信 SNS＋会員の「買った理由の語り」が一次資源に

ビジネスモデル

形態 2つの事業に注力
ReArch＝誰でも参加OK・自治体、企業との繋がりとうまく構築
アートコレクティブクラブ＝一点買い＋語るアートの営みを自分ごとに。そしてその価値を世界に発信

対象 内＝肩書を問わず営みを愛する人／企業＝こちらが能動的に選ぶ“支える関係者”のみ
提供 入会は儀式（選び・語る）。協賛＝森/形/時間/手。研修・キュレーションは関係の“あと”に選んだ相手だけ
収益 会費・作品購入・物販・受注・協賛／補助金は道具。受託はコンセプトをすり合わせ慎重に。

提供価値

- 買って語ることで、アートの営みを自分ごとにさせる
- 違うまま分け合う雑木林の関係／語りの解像度で対等
- 安心・安全が守られた場だから、所有しそれを本気で語れる
- 作家に対して、生々しいフィードバックを返せる。聴き手と作品の供給／街にアートで「平和（平らぎ和む）を手触り感ある形で継ぐ
- ＝すべて無形資産（問い・関係・記憶・出所）

課題（困りごとではなく、その解決のために取り組むこと）

ワークショップという「点」での体験提供は実現できたが、それを「線」や「面」に広げるための仕組みがまだ確立されていない。
単発開催では、気づきが一過性に終わることが多く、持続的に“変化を育てる場”にするための拠点・人材・収益モデルの整備が必要。
また、あなた自身が媒介者として多領域をつないできた結果、活動が拡散しやすく、「再現可能な仕組み」としての体系化が求められている。

外部環境

【資源】心理・教育・アートを横断するはせの専門性に、CLS（広島の上級プランナー）との共創関係、事業設計の近藤、製作の一場木工所、AIR・不動産の三澤が重なる。創造資源はアートブロック（県産材）とReArchの参加体験。被爆樹木は平和の文脈専用で切り分ける。クラブの核となる初期メンバー（ボーディングコアメンバー）と、会員の「買った理由の語り」が、他にない一次資源。
常設拠点を持たず、関係の循環そのものを基盤にする。
【外部環境】AIと自動化が「決まった課題を解く」を担うほど、希少になるのは“非効率な人間らしさ”——自分の問いを立て、所有し、語り、関係を結ぶ力。一方で多様性は形だけになり、本音を出せる場が瘦せている。だから、一点買い、理由を語る“安心・安全な別文脈”が要る。広島は、平和（平らぎ和む）を手触りある形で継ぐ固有の土地。
ローカルの根（被爆樹木・記憶・県産材）に立つからこそ、世界へ差し出せる。
ReArchとアートコレクティブクラブの二層が、その器になる。

2030年に向けていまからどうするか（将来必要となる資源をどう手に入れるか・誰とどうつながるかなど）

アートコレクティブクラブ、のボーディングコアメンバーを集める ／ 「推しアート会」を開催し、プラットフォームの存在意義をで検証／ ReArch Hiroshima アートプロジェクトの拡張化、広島自治体や企業と連携

2030 | こうしたい（全体）

資源

人的 CLS・近藤・一場木工所・三澤／核＝ボーディング
コアメンバー
創造 アートブロック（県産材）・Re:Arch ※被爆樹木は
平和専用で分離
社会 平和記念公園・PANORAMA／Ring・平和推進課
文化 「平ぎ、和む」／森・雑木林／広島記憶
発信 SNS＋会員の「買った理由の語り」

ビジネスモデル

形態 2つの事業に注力
・Re:Arch＝誰でも参加OK・自治体／企業と連携
・クラブ＝一点買い＋語る・営みを自分ごとに・価値を
世界へ
対象 内＝営みを愛す人／企業＝能動的に選ぶ“支える
関係者”
提供 入会は儀式／協賛＝森・形・時間・手／研修は関
係の“あと”選んだ相手だけ
収益 会費・購入・物販・協賛／補助金は道具／受託は
擦り合わせ慎重に

提供価値

- 買って語ることで、営みを“自分ごと”に
- 違うまま分け合う雑木林／語りの解像度で対等
- 安心・安全な場だから、所有し本気で語れる
- 作家に生の声と聴き手・供給／街に平和を手触りで継
ぐ
- ＝すべて無形資産（問い・関係・記憶・出所）

なぜ今 AIが定型を担うほど“非効率な人間らしさ”が希少に。本音を出せる場が痩せる今、安心・安全な別文脈と、手触りある平和が要る。ローカルの根に立つから、世界へ。

いまからどうするか クラブのコアメンバーを集める ／ 「推しアート会」で存在意義を検証 ／ Re:Arch Hiroshimaを拡張、広島自治体・企業と連携

ふれて、くんで、きづいて、ひらく。

HOW IT CONNECTS

プラットフォームの構造



モノ・価値の流れ

お金の流れ

WHO GIVES WHAT

各サイドの価値交換／なぜプラットフォームか

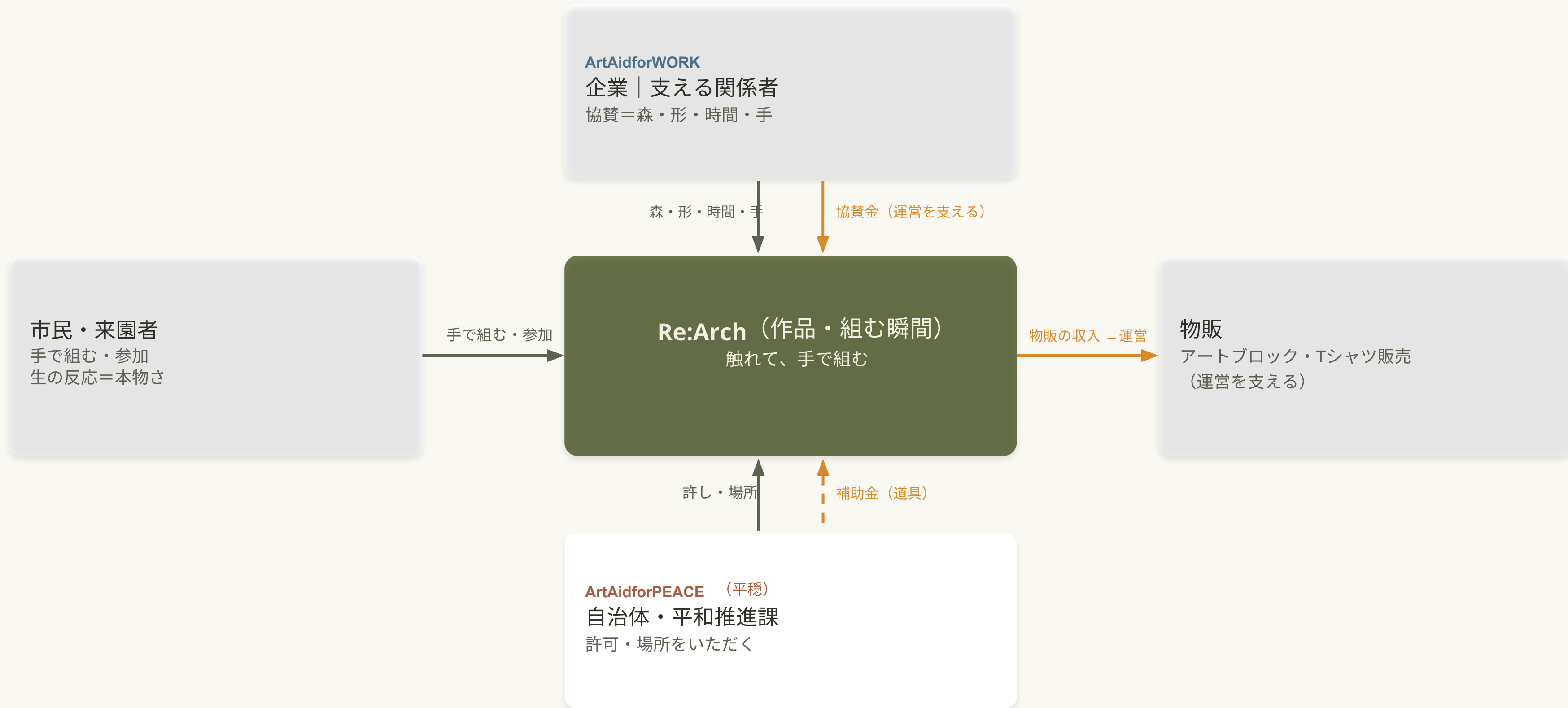
サイド	差し出すもの	受け取るもの
会員 買って語る人	会費・購入・買った理由の語り	作品・聴かれる場・自分ごと化・つながり
作家 つくる人	作品・小品の供給	売れる場・生の声・箔
企業 支える関係者	協賛（森・形・時間・手）	関わり・（あとで）研修・文化への貢献
行政・自治体	許し・場所・補助金（道具）	平和の醸成・関係人口
主宰：はせ	審美・ルール・場の運営	会費・手数料・関係資本

なぜプラットフォームか

一度きりの受託と違い、語り・関係・箔が“たまる”。勝ち筋は、買う人とつくる人が互いを呼ぶ循環（ネットワーク効果）。
危うさは、広島のコレクター層が薄いこと——初期は規模ではなく、主宰の審美と手元の箔（ PANORAMA・Ring・平和記念公園）が場を引っ張る。

MONEY STAYS AT THE EDGE

Re:Arch Hiroshima



お金（オレンジ）は、まわりだけ。中心（作品・組む瞬間）には届かない。

➡ 価値・参加 ➡ お金（まわり）

SPONSORSHIP AS OFFERING

協賛＝差し出すもの／なぜこの形か

差し出す	どう差し出すか	企業に残るもの
森	企業の森の木で一群を作る。静かな ID/QR でその森の物語へ	社員の誇り・物語が語られる
形	企業の何かをブロックの “かたち”に	自社の問いが作品に残る
時間	1年単位の里親。手入れを支える	続く関わり（継続収入）
手	社員が市民と一緒に組みに来る	露出でなく、参加と関係
ひらく	無垢の木の表面、意味は一段下の QR	市民と同じ台帳に並ぶ（広告の上下が消える）

なぜこの形か

ロゴは売らない。協賛＝本物（森・形・時間・手）を差し出すこと。これが “分かっている企業”を選り分ける網になる。

勝ち筋＝本物さと許しは、真似できない資産。

仲間と共に育てる未来

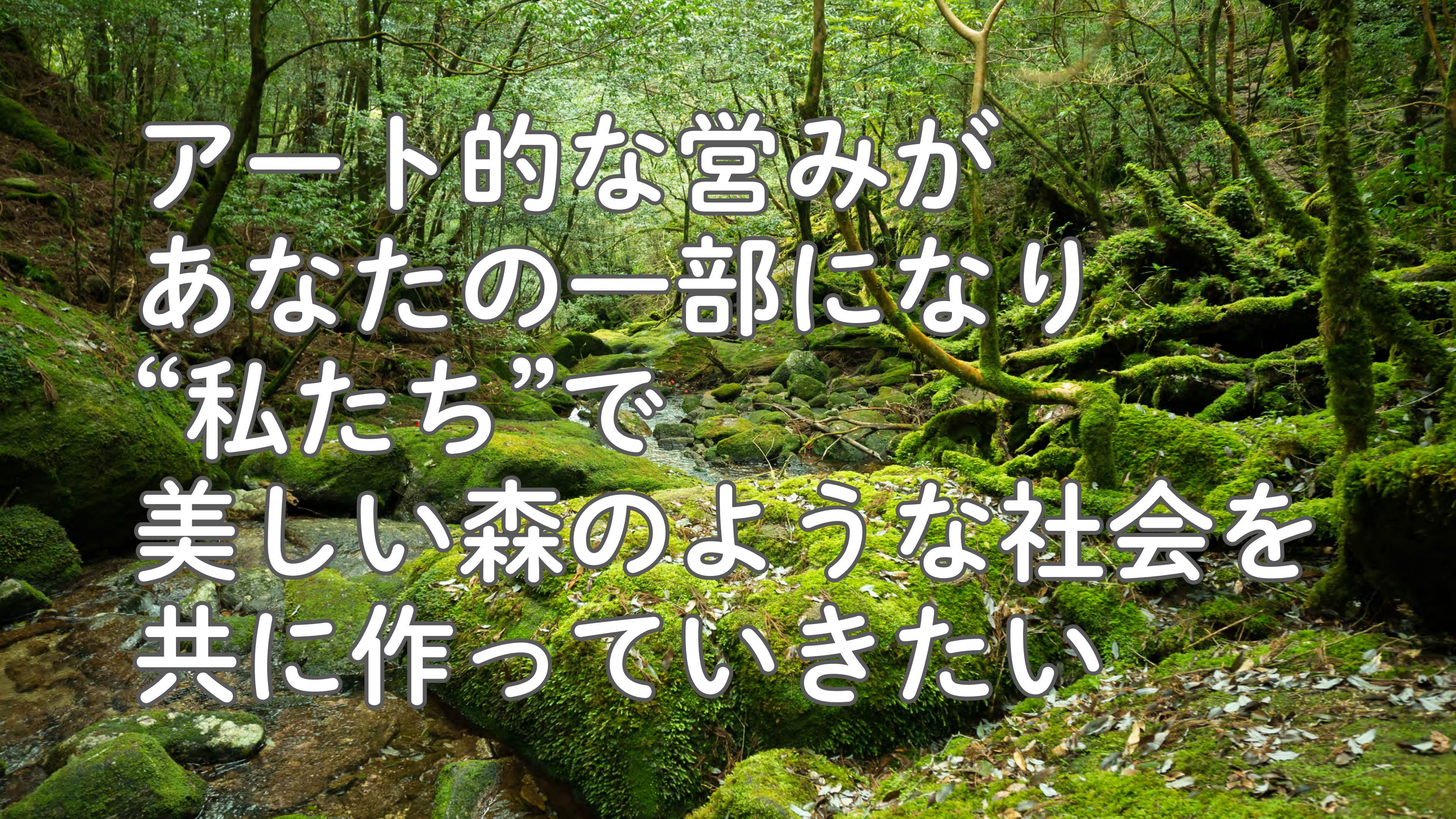
①自律分散型
(autonomous distributed)

②相互尊重
(mutual respect)

③動的均衡
(dynamic balance)

共に媒介する
仲間を探しています



A lush green forest scene with moss-covered rocks and a small stream. The text is overlaid on the image in a white, stylized font with a grey outline.

アートの営みが
あなたの一部になり
“私たち”で
美しい森のような社会を
共に作っていきたい

つながってください！
各種リンクは📌より



CONFIDENTIAL



写真心理学AI診断アプリ 及び 対話プログラム ご紹介資料

株式会社ナムフォト
2026.5.8



Vision : 写真の力で、アイが巡るセカイをつくろう

Mission : 全ての人が表現し、お互いを生かしあう関係づくり



写真を撮れば、視点が変わる。関係性もカルチャー変わる。

これまで、2000名以上に写真講座を提供し、2万3000枚の写真をレビューしてきました。

この経験と心理学を掛け合わせ、写真から、撮影者の価値観や傾向をアセスメントするフレームワークを開発。

写真心理学を用いたプログラムを企業で実施することで、
対話的なカルチャーを醸成。

お互いの違いを生かし合う組織づくりに貢献します。



代表プロフィール



榎 侑子（なら・ゆうこ）

株式会社ナムフォト 代表取締役

ソロプレナーとして、株式会社ナムフォト をベースに活動中。

2000年：多摩美術大学・映像演劇学科で写真を学ぶ

2002年： 在学中よりフォトグラファーの仕事をスタート

2004年：会社員としてMIXI、TOKYO FM、avexなどで、メディアの企画・編集に従事

2005年：若手写真家登竜門コンクール「Canon写真新世紀」で入賞

2010年：フリーランスとして、やインタビューライターや地方創生ディレクターとして活動

2014年：乳がんになり生き方と向き合い、アドラー心理学を100時間以上学ぶ

2016年：株式会社ナムフォトを設立

2018年：三井不動産WORK STYLINGをはじめとするビジネスコミュニティマネジメントに従事

2020年：写真×対話プログラム研修をリリース。「写真心理学®」と名付けて活動。

2022年：通信大学3学年編入（心理学専攻）

2023年：NewsPicks Topics「写真のこれまでと、心理学の可能性」連載スタート

2025年：心理学専門課程を修了し、卒業

導入企業

- JR東日本 懇親会（2021年）
- TIS株式会社（4年リピート・部署拡大）
- NEC（2022年）
- 京都リサーチパーク株式会社（3年リピート）
- コマニー株式会社（2023年初）
- 株式会社Godot（2024年初）
- Lコネクト（京都府ひきこもり者就労支援施設・2年リピート）
- 株式会社 TheChainMuseum（2026年）

採択

- NTT DOCOMO Ventures 「HUB/」
- 東京都女性ベンチャー成長促進事業「APT Women」第8期

参加者数

•500名以上



研究開発

- UCSF 教授（脳科学・医学博士）と
ディスカッション



メンバーの違いを、チームの力に

写真を使って、メタ認知を向上します

仕事の目標： **こと**

最難関ポイント：8合目

最難関ポイント：3合目

3ヶ月かかります。

部下

8合目で給水予定です。

上司

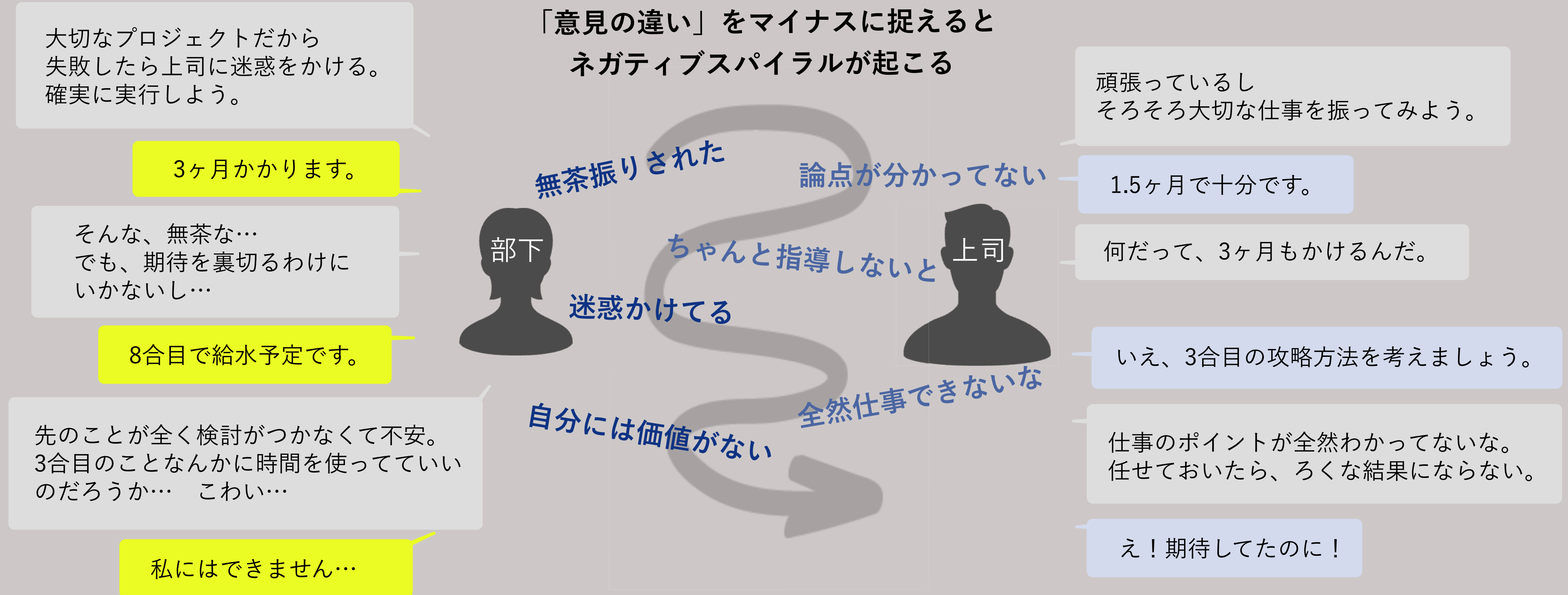
1.5ヶ月で十分です。

いえ、3合目の攻略方法を考えましょう。

目指している「こと」は同じでも・・・

- ①ルートが違う
- ②優先順位と解像度が噛み合わない

Problem 仕事現場で起きやすいコミュニケーションエラーの例



相手への不信感×自分の自信 が失われる結果へ

異なる人生経験から異なる価値観や認識を生む > 感情のもつれ > どちらも間違いではないから解決が難しい

※お互いの違いを活かす能力をCQ（文化的知性）と呼び、IQ・EQに次ぐ第3の知性として注目されています。トレーニングが可能

「チームの相互理解」に必要な視点

顕在化

-課題化しやすい-

- ① どんな出来事が起きている？
- ② 誰が何と言った？

・ 言語化 × 客観理解が可能

潜在化

-問題化しやすい-

- ③ その時の感情や反応は？
- ④ 概念の構造やパターンは？
- ⑤ マインドセットは？

- ・ 「個人」の内的な要因
- ・ 感情/価値観/認知のズレが中心
- ・ 言語化しづらく感情のもつれが発生しやすい

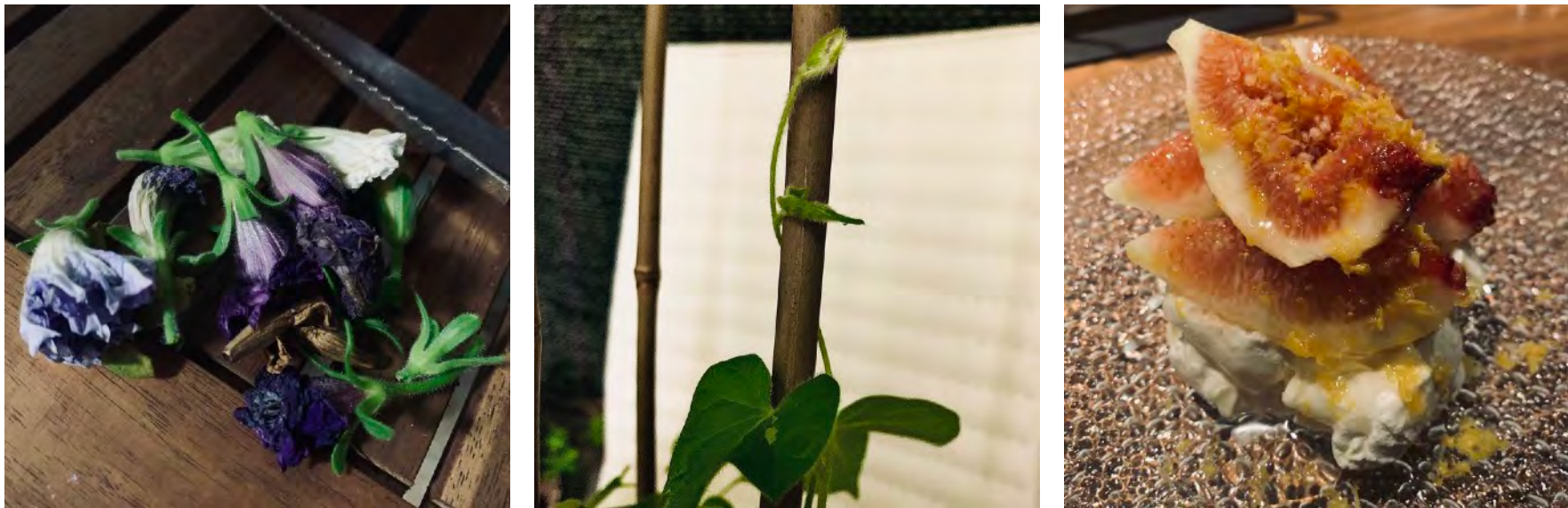
メタ認知

ストレス
耐性

感受性

価値観

写真心理学®で見える化



WHY：生命の妖艶さや本質
HOW：視野範囲が狭い・一点集中型
WHAT：植物・食べ物

コミュニケーションが近く、小さな変化を見逃さない
クリエイターや営業マンに多い写真



WHY：モノの形や構造、作り手の意図
HOW：視野範囲が広い・構造化された構図
WHAT：建築

客観理解が強いマネージャーや構造化力の高いエンジニアに
多い写真

写真があると、話しやすい…

部下

上司

なるほど。
あなたには、セカイが
こんな風に見えてるのですね

写真があると“違い”が面白い。だから、対話が楽しい。議論もできる関係へ・・・

写真心理学®診断

(1.~5.の特徴分析)



言語野

書く・発話

WHAT. 被写体の特徴

診断書の内容

- ・総評
- ・創造性 8タイプ診断
- ・3つの問い

写真

特性が違うメンバー同士のマッチング、どうする？

新規事業開発にアサインされたメンバー。
お互いの特性や価値観の違いを掘り下げた
凸凹型のチームづくりが理想

- ・ 短時間で、どう特性を見分ける？
- ・ 全員に納得感のあるプロセスをどうつくる？

提供価値

言語化されづらい認知傾向を可視化

参加型の対話を体験

写真心理学診断を一つの判断軸へ

実施後の姿

チームの相互理解が進み、建設的な議論が可能に

お互いへの貢献感が醸成され、推進力が生まれる

役割分担が機能し、個性が活きるチームになる

リーダーシップに必要な「他者を生かす力」をどう向上する？

既存業務は回っているが、本年の対話や議論が難しい。
ハラスメントの意識が高まる中、1on1をやっても
メンバーの本音が見えず、困っている。

提供価値

業務外的话题を自然に膨らませられる

普段の思考や行動のパターンが分かる

リーダー自身もメタ認知が高まる

- ・ 自己開示をスムーズに促すには？
- ・ 自分とはタイプが違う人の良さを見つけるには？

実施後の姿

人となりが分かり、安心して議論できる関係性へ

既存業務外の適正や、努力ポイントが見える

対話を通じてリーダー自身も内省・内観が深まる

新メンバーにカルチャーをどう伝えて、メンバーシップを発揮してもらう？

時間をかけて組織の価値観や暗黙知を掴み、戦力化してもらいたいが、オンボーディングが形式的になりやすく関係構築や相互理解が浅い

提供価値

キャリアシートにはない解像度が上がる

新旧メンバーの関係構築の初速が上がる

メンバーを通して組織風土の理解が深まる

- ・ 新メンバーの強みや特性を、どう早期に把握する？
- ・ カルチャーや価値観を、どう“腹落ち”させる？

実施後の姿

新メンバーの強み・適性が早期に把握できる

新旧メンバーのコミュニケーションが円滑になる

早期戦力化・オンボーディング期間の短縮



リモートワークのチームビルディング、どうする？

コロナ以降もリモートワークを推進中。
新旧メンバーのコミュニケーションや
深いディスカッションを深めたい

提供価値

言葉以上の情報を写真が補完

参加型の対話を体験

分析フレームワークが相互理解を促進



- ・ オンラインでも、交流を促進するには？
- ・ 全員の負担なく、コミュニケーション施策に取り組むには？

実施後の姿

人となりを知ることで心理的安全性の向上

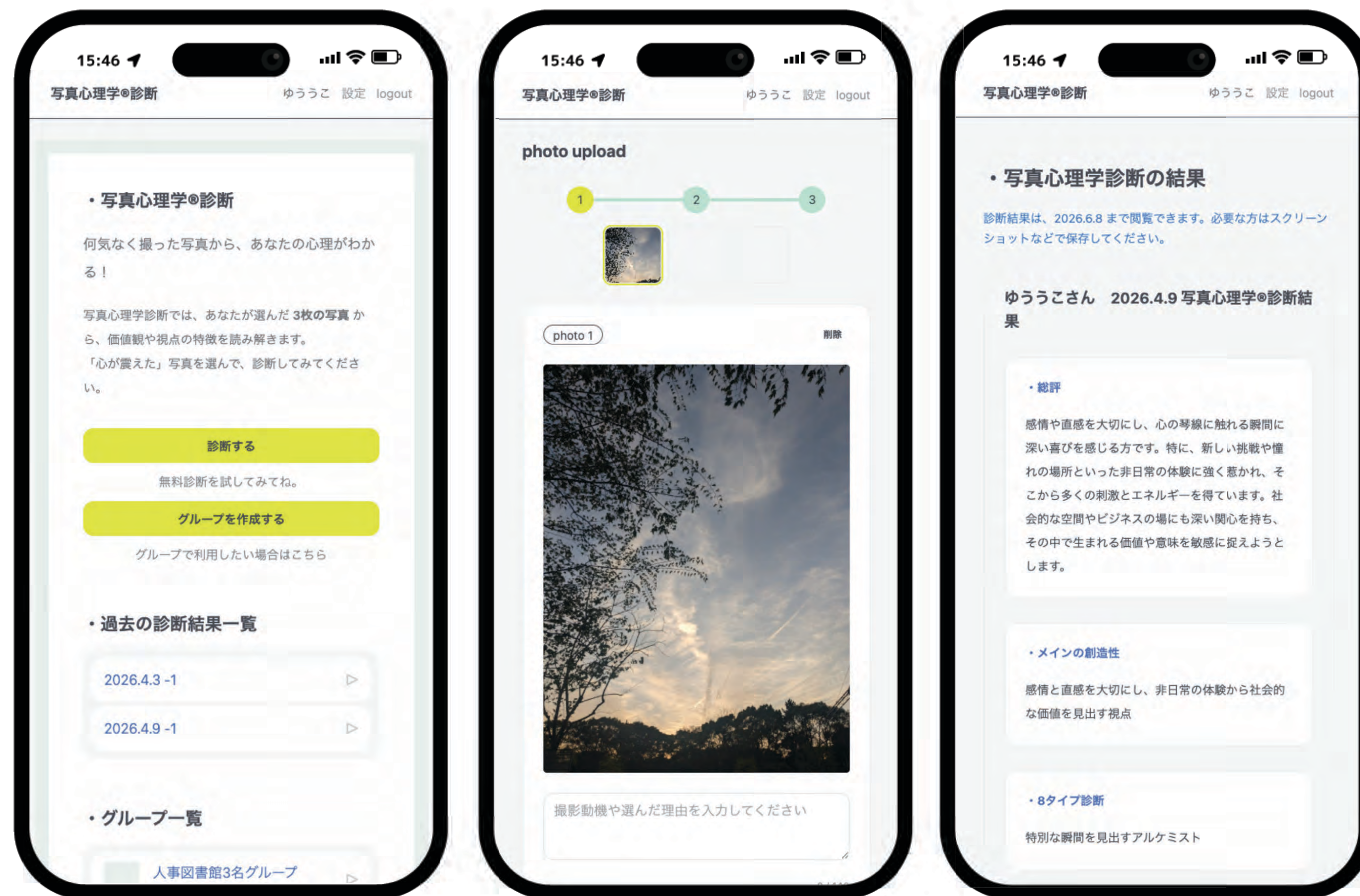
他者受容の気持ち醸成され、推進力が生まれる

内省や内観の機会が生まれ、自己肯定感が向上

潜在意識の見える化 & チームの相互理解を醸成



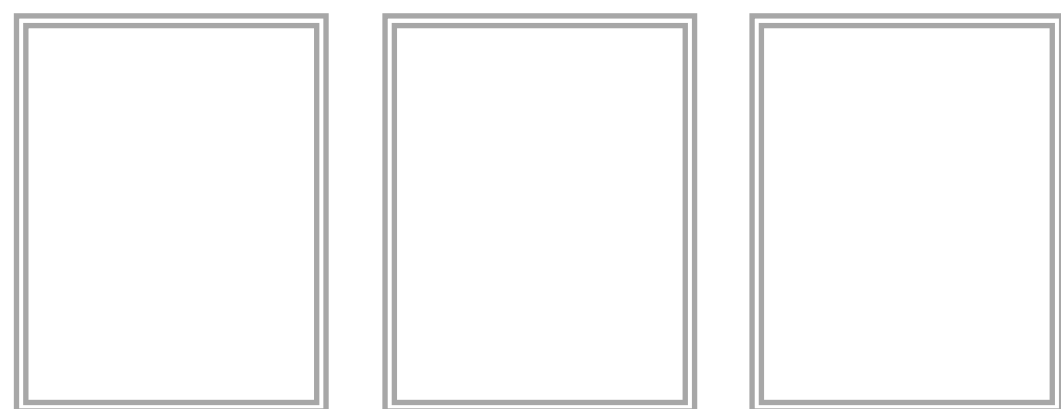
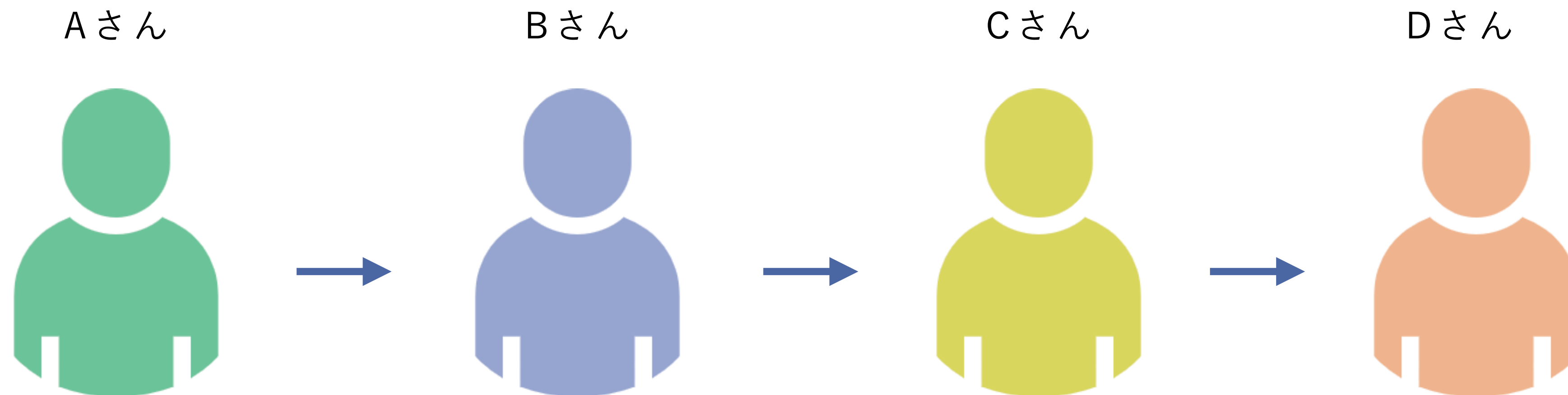
<https://app.numphoto.com/>



自分に対しても、メンバーに対しても
新しい発見があった。
(飲み会より、よっぽど深い話があった)

3枚の”心が震えた写真”から
価値観を診断するアプリです

対話の進め方



- ① 発表者：写真3枚 をプレゼン（撮影動機、工夫など）
- ② 写真心理学診断を読み上げて、3つの問いに答える
- ③ その他全員：好きな写真・自分と同じ点/違う点・質問
- ④ 発表者：最後に一言

写真は、観察×気づきの体験を深化しビジネスと接続するツールです。

1. 問いの探索

哲学的な問い

- ・心が震えた瞬間
- ・ありがとうを感じる
- ・私らしさを感じる
- ・最近気になる人・もの・こと

など

2. 写真の撮影



3. 写真心理学対話

チーム



4. まとめワーク

私×ビジネス



正解のない問い

多様な視点・視野・視座

問い×私×社会を接続

写真分析≡写真心理学

私を主語にした言語化

インタラクティブな対話

ビジネスシーンと接続

料金表

企業研修料金

参加者人数 時間	ワークショップ形式 (ファシリテーション付き)
1名 1時間	33,000円
～10名 2時間程度	220,000円
～100名 時間応相談	2,200,000円

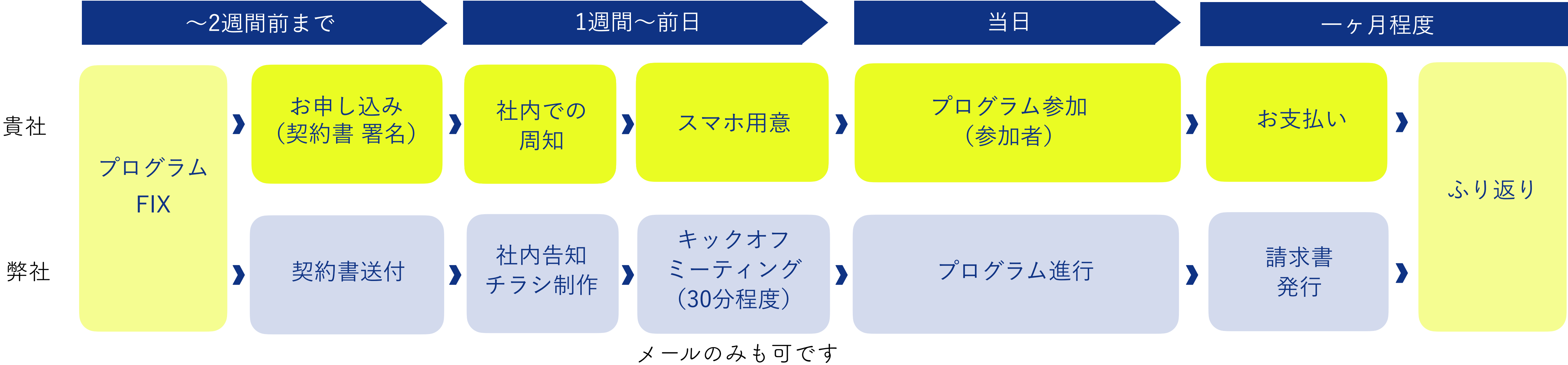
※税込み

アプリ料金

参加者人数	診断アプリを使ったプログラム
1名	300円
数名程度	導入サポート (キックオフMTG・対話虎の巻付き) 55,000円

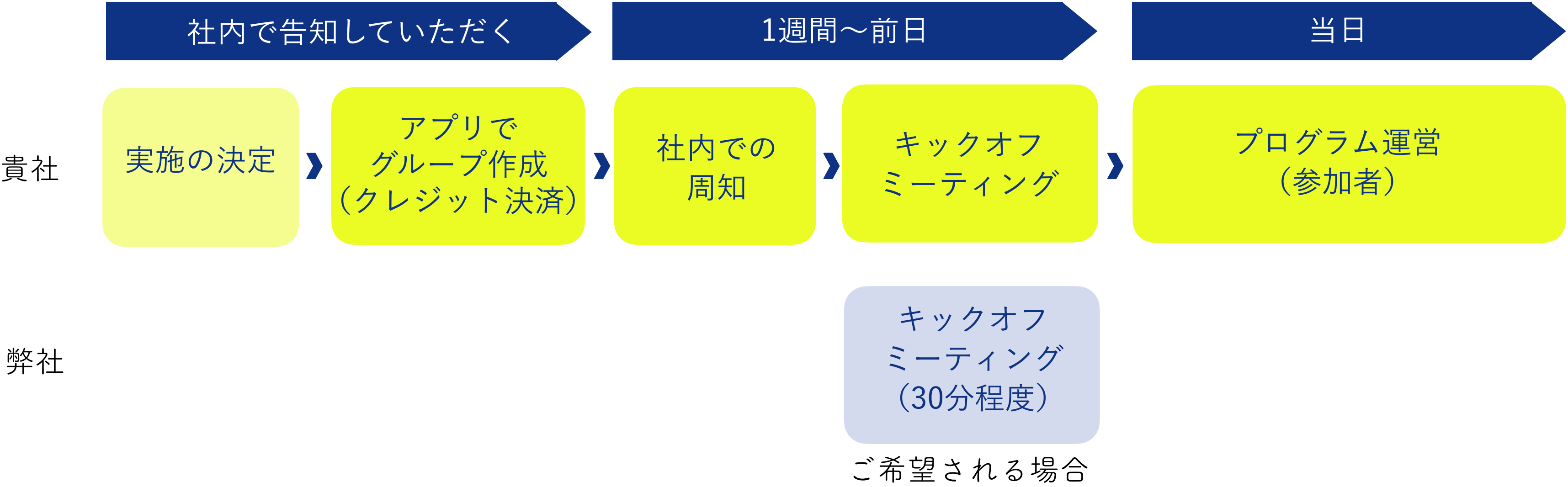
- ・導入サポートは、アドオンメニューですので、※税込み
なくとも実践していただけます。
- ・AI診断とは別に、人材創造性傾向に基づく個別アセスメント
の作成などのご相談が可能です

ワークショップ実施までの流れ



- ・ 契約書は、電子署名（クラウドサイン）を推奨しています。
- ・ お申し込みに関して、貴社規定のレギュレーションがある場合は、その旨をご相談ください
- ・ お申し込み時に必要なもの ●人数 ●実施スケジュール
- ・ Googleドライブやパワーポイント利用時に、貴社内で申請が必要な場合は、ご対応をお願いします

アプリを使った対話実施の流れ

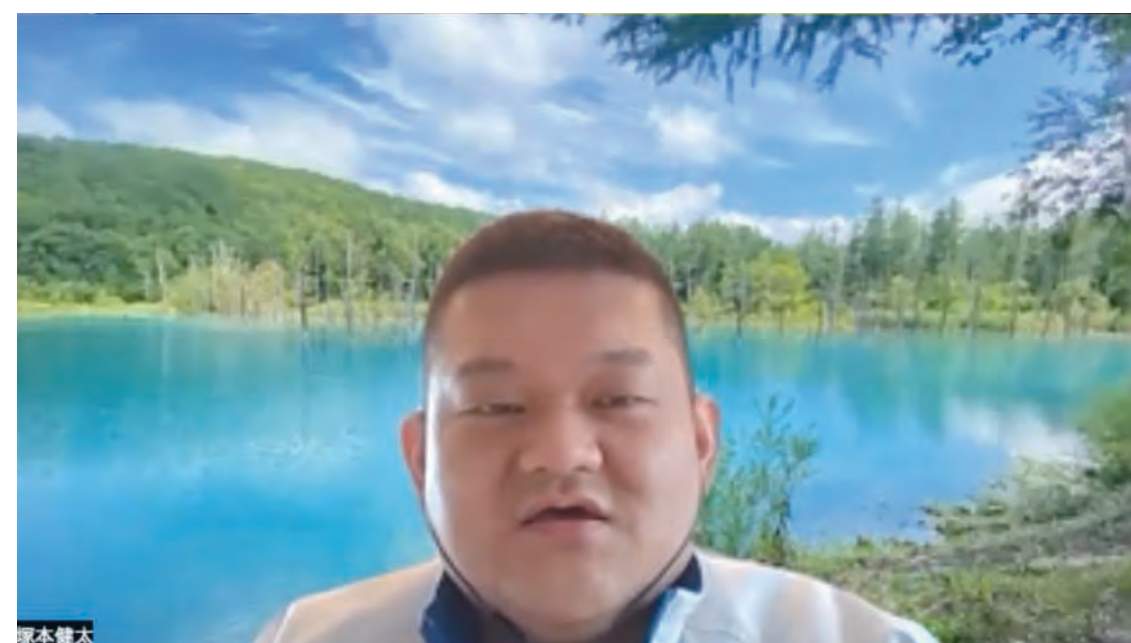


- ・ 人数分のグループを立ち上げる際に、クレジットのお支払いをお願いします
- ・ メンバーへの説明やキックオフMTGをご希望される場合は、請求書 & お振込みか、クレジットでのお支払いをお願いします
- ・ 領収書の発行が必要な場合は、金額と宛先をお知らせください

導入企業



コマニー株式会社 2023年12月1日 ユーザーインタビューより



代表取締役 塚本健太さん

このすごさは、やってみて気づきました。たわいもない話はしてもしなくてもいい。「深い対話をしよう」というのは、ハードルが高いです。でも「写真3枚」から話が始まるのですごいハードルが下がりますね。



経営企画 有江晴花さん（入社3年目） 製造部生産技術部長 土定寛之さん（30年目）

無意識が変化した。上司への話しやすさが200%向上した。相手が信頼のおける人間か、そうではないかではなく、「こんなこと言っても大丈夫かな」という自分の中の不安がなくなった。



miit（写真心理学®プログラム）を通して喋ると「こんなやる気を持ってるんだ」「こんな信念あるんだ」と分かったりするんじゃないかな。
話しやすさがあるし、普段考えていることが見える良さがある。

個人の創造性

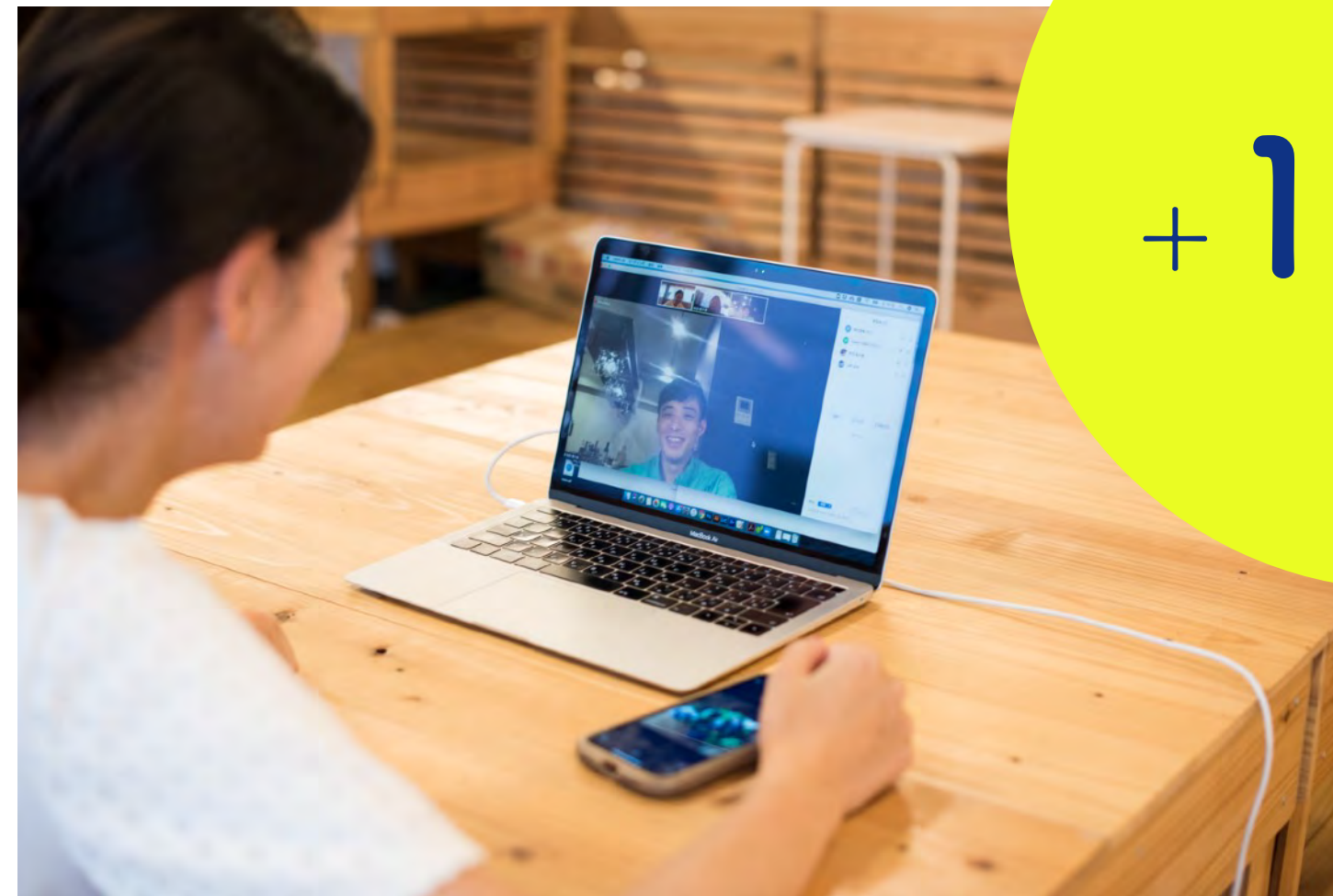


+17.1%

診断項目：

問題提起力、アンテナ力、自分軸の明瞭性、自己肯定感
他

チームの協力関係

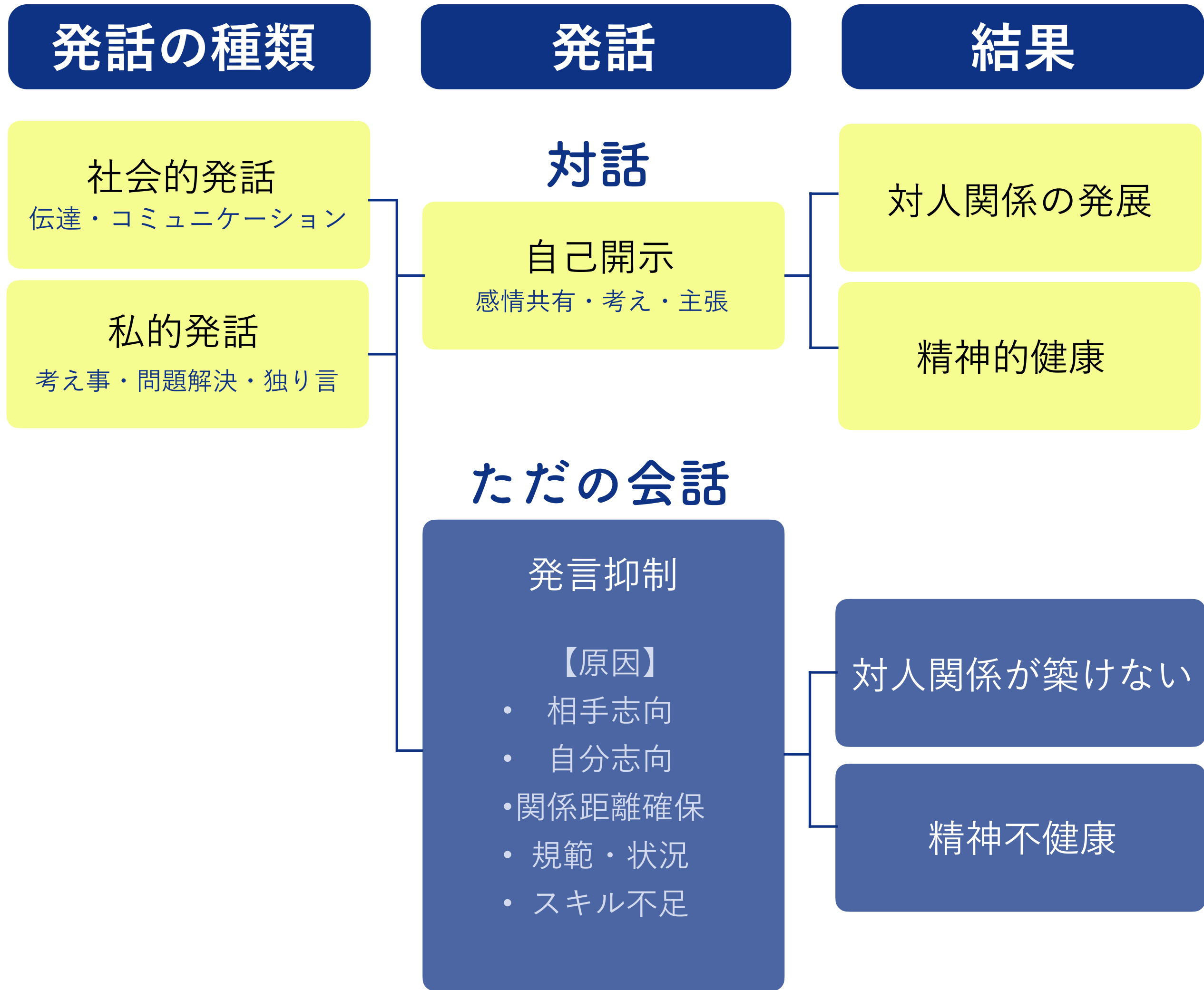


+14.4%

診断項目：

心理的安全性、相互尊敬、活気活力、他者受容
他

写真心理学を使うと、“メタ認知”が容易に起こり、言語化されていなかった自身の強みや価値観が理解できるようになります。



※参考：「感情心理学・入門」大平英樹 編

Key Point 1 . 対話は難しい

必要なのは自己開示のある建設的な深い対話。日本人は対話になれておらず、自己開示に不快を感じやすい。
「（仕事の中で）そんなこと話す意味あるの？」
「”こと”に向かえばよくない？」といったように対話しない態度を肯定する意見が出てくることもある。

Key Point 2 . 「自動思考」へ発展

長年の発言抑制が重なると、不適切な関係に陥りやすい思考パターンへと発展

- ①思い込み：私はいつも失敗ばかりする
- ②白か黒か：◎◎は全く役に立たない
- ③べき思考：こうあるべきだ
- ④自己批判：誰も私を認めてくれないし、私が悪い
- ⑤深読み：（不機嫌な人を見て）嫌われている
- ⑥先読み：絶対にうまくいくはずない

※参考：「専門医がやさしく語るはじめての精神医学」渡辺雅幸

よくある質問

Q.写真の上手い・下手は関係する？

→ 関係しません。普段写真を撮らない方でもお楽しみいただけます。

Q.こんな悩みにも対応できる？

→ 課題特性に合わせて、様々なアレンジが可能です。

Q. 一度に何名くらいで実施できますか？

→ これまでの実績としては、5名～35名です。35名以上にも対応できます。

*** まずは、ざっくばらんにディスカッションをさせてください！**

株式会社ナムフォト



写真の力で、
アイが巡る
セカイを
つくろう。

連絡先： 檜 侑子

nara.yuko@numphoto.com

代表取締役	檜 侑子
所在地	〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-11-3 印刷工場1階
創立	2016年5月13日
資本金	300万円
主な事業内容	①写真撮影及び写真教室開催 ②研修、セミナー、講演及びカウンセリングの実施 ③現代人の幸福、生活に関する研究、コンテンツ企画、開発 ④イベントの企画、運営 ⑤雑貨の製造及び販売 ⑥全各号に付帯または関連する一切の業務
インボイス登録番号	T7120001198278
取引先一覧	・ TIS ・ NEC ・ 京都リサーチパーク ・ コマニー ・ ベネッセ・コーポレーション ・ 三井不動産「WORK STYLING」（アソボット、カイケツ） ・ TRI-AD（現：ウーブン・バイ・トヨタ） ・ 日建設計 ・ 大阪府 ・ 山口県阿武町 ・ 大阪府大東市 ・ Lコネクト（京都府ひきこもり者の就労支援施設） ・ 株式会社コトラボ ・ 株式会社東京ランドスケープ研究所 ・ 一般社団法人マネージング・ノンプロフィット ・ 一般社団法人ソトノバ 他多数

定例研究会（会員のみ参加可能）

日程：2026年7月16日 19:00～21:00

実施方法：オンライン（zoomミーティング）

「知的財産推進計画2026の紹介」

内閣府知的財産戦略推進事務局

講演：「暗黙知を活用して、日本が世界を、地球を救う（仮）」

住田孝之氏（元知的財産戦略推進事務局長）

報告：「経営デザインシートの活用状況（仮）」

分科会メンバーより

申込方法：日本知財学会の経営デザイン分科会ページより

ご参加ありがとうございました

アンケートへのご協力をお願いします

<https://jp.surveymonkey.com/r/FBNDRHK>